

## はじめに

本書を手にとっていただきありがとうございます。

本書は2010年に出版された「68点を確実に取る勉強法」に一部加筆修正をしたものです。

2010年当時と現在では、日本の社会情勢そのものが大きく変わりました。これは言うまでもなく2011年3月11日に発生した東日本大震災によるところが大きい。

私の講義を受けていた人の中にも、被災した方が数多くいらっしゃいました。被災

の程度によっては、勉強の再開が難しい状況に追い込まれたという方もいらっしゃると思います。

この出来事は、あらためて1つのことを教えてくれたと思っています。

それは、「資格試験を受けることができる」ということは、本当に恵まれている」ということです。

資格試験の勉強をすること自体ままならないような状況におかれている人も少ない中で、あなたが資格試験を目指して勉強できる環境にいたることができていることを、まず感謝しなければいけません。

そういった感謝の気持ちがあるからこそ、勉強をするにあたって工夫をすることもできるのです。

そうです。資格試験の勉強は「合格してなんぼ」という世界です。

もちろん、そこに至るまでのプロセスも大切ですが、最終的には「合格」しないことには意味がない。少なくとも、目指した資格を活用して、あなたの活躍の幅を広げ

ていきたいと考えているのであれば、合格しないことにはどうにもならないでしょう。  
**だからこそ工夫をする。**

最終的には、試験時間内に合格に必要な得点を取らなければ合格ができないわけですから、ただ知識があればよいというものでもありません。

あなたが目指す資格試験が要求してくる知識レベルをきっちりクリアできるだけの知識を備えることは、ある意味当然の話なのです。

大切なのは、そうやって**あなたが習得した知識を使って、与えられた問題を解けるようになる**ことなのです。しかも試験時間内で、という制約つきです。

とすると、問題で問われているポイントを短時間で分析し、そのポイントに対して的確な知識を引っ張り出すことができないといけない。

結局、「知識力」「分析力」「抽出力」が有機的に連携している状態でなければ、合格を勝ち取ることができない、ということなのです。

「知識力」「分析力」「抽出力」を有機的に連携させることができるようになるために

は、それを目指してしっかりと計画をつくって勉強しなければいけません。

「第1章 この「学習計画」で合格できる！合格を決める「段取り力」のつけ方」では、学習計画の作成にまつわるノウハウを紹介しています。第1章の中でも書きましましたが、学習計画を作成することは、あなたが合格するまでの道筋をあらかじめ把握することでもあるのです。だからこそ、「**学習計画**」を作成すること**＝合格への第一歩**なのです。

そして、私が教えている行政書士試験をはじめ社労士試験や宅建試験、FP、中小企業診断士試験など多くの資格試験の受験生の中心は、仕事をしていたり、家庭の主婦であったりときさまざまな制約を乗り越えて闘っている人が大半です。つまり、1日中時間を勉強に充てられるという人はむしろ少数派であって、「**勉強時間をどうやって確保するか**」が永遠の課題となっている人の方が多いのです。もしかすると、本書を手にとってくれたあなたもその一人かも知れません。

「第2章 一発合格する人の「時間」の使い方 こうすれば、試験までの「時間」は増える」では、時間管理に関する方法論を紹介していきます。資格試験における時間管理は、あなたの実生活との折り合いをどう付けていくか？ という点に集約されま  
す。「スタディライフマネジメント」というのは、それを表す私がつくった造語です。  
厳しい言い方をすると、「**時間がない**」のではなく、「**時間をつくろうとしていない**」  
人が少なくありません。

1週間にどのくらい勉強時間がとれるのか？ そしてあなたが1週間で実際にどの  
くらいの勉強することができたのか？

こういった質問にすぐに答えられないのであれば、残念ながらあなたも「時間をつ  
くろうとしていない」側の人だということになる。

「そんなことない！」と思ったのであれば、ぜひ第2章を読んでみてください。

「知識力」を充実させていこうとしたとき、多くの人がぶつかる壁。それが「あんな  
に勉強したのに、全然覚えてない」という「記憶力の壁」です。

この壁にぶつかる人は、「忘れてはいけない」という間違った強迫観念にがんじがらめになっていることが少なくありません。「忘れてはいけない」から「丸暗記する」をしようとする。仕事をしたり、生活をするためには、勉強する内容以外のこともいろいろと覚えていなければいけません。その上、生きていくために絶対必要とはいえないような勉強内容を詰め込んで丸暗記しようとしても、うまくいくわけがないのです。あなたはまず「忘れてもいいんだ」と思うことから、意識を修正していきましょう。むしろ忘れてもいいから、忘れたときにできる限り思い出せるような工夫をしていくのです。

「第3章 思い出せる記憶法 忘れたときの思い出し方を知っておく」では、「忘れたときにどうやって思い出すか」という点にスポットをあてています。「脱丸暗記」ができたとき、あなたは「大人の勉強法」に足を踏み入れることができたと思ってくださいね。

「分析力」「抽出力」は問題を解くことで養われる、ということも言うまでもありません。

せん。

問題を解くときに、一番大切なのは「問題集の使い方」です。ただやみくもに問題を解きまくればいいというわけでもありません。そもそも1日中勉強に時間をあてられないからこそ、問題を解くときにも工夫が必要になるのです。

「第4章 最短で結果を出す人の「問題集」の使い方 試験で役立つ「解答力」を身につける」では、まず問題集との向き合い方を紹介していきます。

あわせて、模擬試験の復習方法についても詳しく紹介しました。模擬試験の復習も、**模擬試験が直前期に実施されるだけに工夫していかないといけない場面**です。この工夫は模擬試験を受ける段階から必要です。そしてなんとといっても、「模擬試験の復習をしていたら、本来予定していた勉強がまったくできなくなってしまう」という状況を回避することが大切ですね。そのための方法論も紹介しておきました。

最後は、**試験との向き合い方に関する工夫**についても考えておかなければいけません。

そもそも試験は受験者を落とすために行なわれるものです。だからこそ、出題者はあの手この手で落とすための工夫をしてくきます。出題傾向を変えてくるというののもその1つです。多くの受験生は出題傾向が変わると、それだけで動揺してしまいます。その結果、従来の出題傾向に沿って出題された問題まで間違えてしまう。だからこそ出題されたすべての問題の状況をまず把握しておくことが重要になるのです。

どこにこれまでと傾向の違う問題が配置されているのか？

どこに従来の出題傾向に沿った問題が配置されているのか？

こういったことを把握することで、**動揺を最小限に抑えることも可能**になります。

「第5章 明日からできる！ 合格のマル秘テクニク」では、**試験対策のイロハ**を紹介しました。試験場で動揺しないためにも、この章で紹介したさまざまなテクニクを駆使して、ゆるぎない実力をつけていきましょう。

このように、本書では資格試験の合格に向けて、受験生が知っておくべき情報をふんだんに盛り込んでいます。ただし本書に書いてあることを、そのまますべてやりな

さい！ ということではありません。「あなたはあなた」ですから、あなたなりに工夫をして、あなたにあった勉強法をつくってほしいのです。本書はそのための素材集のようなものだと思います。

中には、本書で紹介した方法論について、すでに知っているという人もいます。ます。

大切なのは、「知っている」「レベルで止まらずに」「実践している」というレベルまでいくことです。あなたが目指している資格試験に本気で合格したいのであれば、「ノウハウコレクター」のようになってはいけません。本書を通じて知った方法論を、あなたなりに工夫して実践してこそ意味があるということをお忘れなくください。



最短で最高の結果を出す「超効率」勉強法◎もくじ

はじめに.....

9



## 最短で「合格する人」になる方法

——発合格するタイプとは？

「合格するタイプ」「合格しないタイプ」.....

26

知識ゼロから「半年で合格した」ハケン社員の女性.....

27

失敗する受験生の3パターン.....

29

衝撃の90%.....

31

「まだ間に合うでしょうか？」.....

32

絶対合格！.....

34

濃密な時間をつくる.....

36

合格したいなら、「自分の考えは曲げる」こと.....

37

あきれほど〇〇〇であれ！.....

38

大事件！ 消防車、救急車、パトカー、ヘリコプター集結.....

40

# 第1章

## この「学習計画」で合格できる！

——合格を決める「段取り力」のつけ方

1日5分でも合格する！	43
合格を目的にしてはいけない	43
モチベーションは確実に上がる！	45
誰もが「同じ悩みを持つ」から、心配はいらない	49
モチベーションアップ、最高の秘策	53

合格するための「段取り力」とは？	60
合格するための「4つの明確化」	64
計画づくりの第一歩	65
優先順位をつけていく	68
時間配分の優先順位を明確化	70
具体的に学習計画を立てるときの注意点	72
長期のTODOリスト	75
公開模試は2社以上受ける	77
中期のTODOリスト	80
計画は変えるもの	83
数値化で差が出る	85

## 第2章

# 「時間」の使い方

——こうすれば、試験までの「時間」は増える

やるべきことの細分化	87
短期のTODORIST	89
消化するべき内容を書き出す	92
合格のサイクルをつくる方法	94

「そもそも時間がとれないのよね……」	100
時間をつくる方程式	101
勉強時間なんかはない!	104
黒い部分以外は全部「勉強できる時間」	106
学習の複雑化	111
スキマ時間（レギュラー・ベンチ）の使い方	113
重い問題集の賢い持ち歩き方	116
睡眠時間は絶対確保する	118
生活習慣を見直すと時間が増える	119
時間をゲーム感覚で消化する	123

### 第3章

## 思い出せる記憶法

—— 忘れたときの思い出し方を知っておく

人間は忘れる生き物……………

なぜ、ベテランドライバーは忘れないのか？……………

繰り返し記憶法の3つのポイント……………

R14指定の記憶術「ヒンドウメソッド」……………

記憶定着の3つのポイント……………

モチベーションを維持する「見る工夫」……………

頭の中に「キツカケ」をつくる……………

超カンタンな「キツカケ」づくり……………

頭にストックするための最強ツール……………

旧日本軍スパイの記憶術……………

記憶の再生グセをつける……………

連絡経路を太くする……………

130

133

135

140

145

154

156

159

164

167

170

173

### 第4章

## 最短で結果を出す人の「問題集」の使い方

—— 試験で役立つ「解答力」を身につける

問題集は最良の参考書……………

178

## 第5章

# 明日からできる！ 合格のマル秘テクニック

試験の特性を知る

「落ちるために」は何をしなければいいのか？

221 218

問題集をする2つの意味

年度別か？ 分野別か？

解説にこだわってはいけない

情報の取り過ぎにご用心！

その問題の正答率を上げての意味ゼロ

イージーミスをなくす方法

1冊を繰り返し返すべきか？ 何冊も解くべきか？

1冊の問題集を繰り返し解くときの注意点

合格する人の「模擬試験の受け方」

「わからない問題を解答しないと、次に進めない」人へ

自分が出題者になったつもりになる

見直しの効率化「トリアージ復習法」

復習の基準

復習時間を減らす技術

213 209 206 204 198 196 192 190 188 185 183 182 181 180

無駄なこととは？	222
徹底的にやる	227
強い気持ちを持ち続ける	232
インプットとアウトプットの比率	234
絞り込め！ 資格試験は、学問研究ではない！	238
カンペキ主義者は合格できない！	241
「カンペキって、どのレベルですか？」	242
目次学習法	248
すべての情報を一体化させる	250
試験会場に持っていくための整理法	253
情報を「ノート」で整理する	255
「弱点発見&克服ノート」でリバーブ学習を実践	256
情報を「付箋」で整理する	259

おわりに	265
------	-----

カバーフォーマット◎panix (keiichi satou)  
 カバーデザイン◎河村 誠  
 本文デザイン◎二神さやか  
 DTP◎白石知美 (システムタンク)

プロローグ

# 最短で「合格する人」になる方法

——一発合格するタイプとは？



合格



## 「合格するタイプ」「合格しないタイプ」

行政書士試験の指導を始めて、まもなく13年目に入ります。

それ以前に大検スクールや中学受験、高校受験などの指導もしていましたので、講  
師歴は18年（学生時代のアルバイトも含めると22年）になります。

その間、さまざまな受験生を見てきました。

一生懸命勉強しているように見えても、なかなか目的の試験に合格できない人。  
反対に、それほど頑張っているように見えないのにサクッと合格してしまう人。  
「勉強しなきゃ」「もうヤバイよ」が口癖で、実際はまったく勉強していない人。  
模擬試験ではいい点数をとるのに本番に弱い人……。

これまで教えた方の最年少が6歳。最年長は70代。

私は、幅広い年代の人を指導して痛感したことがあります。

それは、

「合格するタイプ」の人に、「試験の種類」や「受験生の年齢」は関係ない！  
ということですよ。



## 知識ゼロから「半年で合格した」ハケン社員の女性

明らかに、「試験に合格するタイプ」は存在します。

その反対に、残念ながら「合格できないタイプ」も存在しているのです。

私が指導して、行政書士試験に半年で「一発合格」した女性が合格体験を話してくれたときに、それを再認識することができました。

彼女は20代の派遣社員さんです。

平日は朝から夕方まで、会社で仕事をしながらの受験でした。

行政書士試験は、合格率がそれほど高くはない試験です（2012年度は約9%）。半年で合格したということは、きっと彼女は何かほかの資格試験を受けたことがあったのでは？ と疑う人もいらつしやると思います。

ところが、答えはNOです。

**まったくの白紙状態から「半年で一発合格した」のです。**

受験生活を振り返る彼女の話は、まさに「合格するタイプ」の典型でした。

彼女に限らず、私が指導して合格を果たした人は、すべて「合格するタイプ」へと変身を遂げていきました。

合格するまでにかかる時間は、その人が「合格するタイプ」になるのにかかった時間といえます。

「先生、合格するタイプとは、どのようなタイプなのでしょうか？」

こんな質問を受けることがあります。私の回答はいつもこうです。

**「合格するタイプ＝素直な人、です」**

反対に、「合格しないタイプ＝素直でない人」ということです。

「素直でない」受験生は間違はなく、合格に到達するまでにかかなりの回り道をするこ  
とになります。しかも、そのことに本人は気がついていません。

結局、痛い目に遭って、やっと修正されるのです。



## 失敗する受験生の3パターン

「素直でない」受験生のパターンは、大きく3つに分けることができます。

### ①結果的に遠回りする「固定観念」タイプ

これまでの成功体験（なんらかの資格試験での合格など）や、自分でつくり上げた  
固定観念にとらわれ、他人にアドバイスを求めません。

つまり、自分の問題点を発見することができない人です。

「自分でつくり上げた固定観念」も実はインターネットなどから得た2次情報である

ことが多く、オリジナルの発想も実は少ないのが特徴です。

## ②フィルタータイプ

これまでの成功体験や自分でつくり上げた固定観念にとらわれているのは、①のタイプと共通していますが、一応アドバイスを求めるので、自分の間違いを比較的、発見しやすいタイプではあります。

このパターンは、一応他人のアドバイスを求めるのですが、すでに自分の中にある一定の「固定観念」でつくったフィルターを通すので、それを通ったアドバイス以外は受け付けません。

自分にとって耳の痛いアドバイスには特に敏感で、強烈な拒絶反応を示します。

## ③なぐさめタイプ

アドバイスは一応聞きますが、すぐに「自分の場合は……」とか「その人がすごかったんでしょ？」と、そのアドバイスを「特殊なケース」であると片づけてしまいます。

不思議なのは、このパターンに当たる人は、意外と「アドバイス依存症」でもあることです。

やたらとセミナーに出席し、講師に直接質問するなど、一見積極的にアドバイスを求めているように見えるのですが、そこで学んだ知識をことごとく「特殊なケース」に分類して、自分をなぐさめているだけの人です。



## 衝撃の90%

衝撃的な数字があります。

実はアドバイスをされた段階で、それを「実行できる人は全体の10%くらい」だと言われています。

残りの90%の人は、アドバイスは聞いたものの、さまざまな理由で実行しないままになってしまふ……。

しかも、「実行できなかった」というのは、まだ実行しようとした形跡があるので

マシなのです。90%のうち半分くらいは、実行すらしようとしない。

つまり、「聞いてはみたものの、自分には無理だと感じた」「期待した内容ではなかった」「聞いているようで聞いていなかった」……などなど。

いろいろな理由（言い訳）はあると思いますが、これが現実です。



## 「まだ間に合うでしょうか？」

試験が近くなると、「今からがんばれば間に合うでしょうか？」「まだ成績がこのレベルですが間に合いますか？」といった質問をする人が増えてきます。

このような質問をする人は、大きく2つのタイプに分類できます。

- A ここまで、ほとんど勉強していないタイプ
- B それなりに勉強してきたが、不安が非常に大きいタイプ

いずれの場合であっても、「お墨付き」がほしいという気持ちは共通しています。

「間に合いますよ」と言ってもらえれば安心する。

私も安心して勉強してほしいですから、「もちろん間に合いますよ」と答えることが多い。ただ、「間に合うための保証」を求めているのであれば、その期待には沿いません。「間に合うかどうかは自分次第」だからです。

少なくとも、「これまで、がんばってこなかった」ことを後悔するくらいなら、「本当は、すでに『やっておくべきこと』」をコツコツと実行するほうが、まだ合格に近づくでしょう。

こうした、ちょっとした気持ちの持ち方で、「合格できるタイプ」になるか、「合格できないタイプ」になってしまいかに分かれてしまうのです。

どうですか？ あなたに当てはまる部分がありませんでしたか？

まずは、自分の状況をはっきりと把握することが大切ですから、当てはまっていたからといってガツカリする必要はありません。

今から、私があなたを変えます。ご安心ください。



## 絶対合格！

一方、このようなタイプに当てはまらないのが、「合格するタイプ」です。

「みんなができる問題を絶対に間違えない」

「覚えるべきことは覚えるまで繰り返し返す」

「情報は一元化する」

「条文を徹底的に読み込む」

「苦手分野をつくらない」

といった、ある種オーソドックスなものです。

さらに、「テキストへの書き込みの方法」や「条文を読み込むときの注意点」「苦手

分野の解消方法」といった具体的なアドバイスもすべて実践していました。

試験での「時間配分」や「絶対合格する」という強い信念」を持つこと、さらには、「合格後のイメージを持って勉強する」ことまで、すべて実践していたのです。

これらは、教室や「横溝慎一郎行政書士合格ブログ」で提唱してきたものです。

私が指導して合格した人は、大なり小なりこれらのいわゆる「よこみぞメソッド」を実践してくれているのですが、ここまで徹底していた合格者はそうそういません。

「合格するタイプ」は単に素直であるだけでなく、「信じて徹する」ことができる人なのです。

行政書士試験に限らず、資格試験に合格するのに何年もかかってしまう人は、この「信じて徹する」ことができていません。

あつちにフラフラ、こっちにフラフラ。地に足がついていないのです。

インターネットを見れば、いかにも役立ちそうな学習法の情報があふれています。

書店に行けば「今度こそ合格できるかもしれない」と思えるような参考書や問題集もあふれています。



その情報の渦に巻き込まれて漂流してしまうと、自分でも気がつかないうちにとんでもないところにまで流されてしまうことがあるのです。

## 濃密な時間をつくる

資格試験の合格には、必要なことがあります。

まず、マネジメントができること。

これは、「生活管理」「時間管理」「計画管理」など、あなたの生活と資格試験の学習を両立させるために絶対必要な要素です。

中でも「時間管理」は非常に重要です。社会人が資格試験の学習をする場合、忙しい合間をぬって学習時間を確保しなければなりません。

何かやりたいことがあって、そのためにその資格が必要ならば、できるだけ早い段階で取得しなければなりません。

だからこそ、「時間管理」は重要です。時間が確保できなければ、合格は難しい。



## 合格したいなら、「自分の考えを曲げる」こと

しかも、その「時間」は濃密なものでなければなりません。ダラダラと時間をかければいいというものではないのです。

かつての司法試験のように、5〜10年かけて受験を継続することは、変化の速い現代社会においては得策ではありません。

だから、現状を把握することが重要だということを、私はいつもお話しています。

「自分が置かれている状況を客観的に把握することができる」

これは、学習進捗しんちよく状況の把握や、これから力を入れるべき項目の把握など、あらゆる場面で要求されます。

現状の把握を客観的にできることは、全体を把握しているということなのです。

そして、変化を恐れないことも大切です。

学習計画に破綻はたんをきたしているのに、それでもなお最初に立てた計画に固執する人

がいます。

私からアドバイスを受けた後も、自分のやってきた学習法に固執する人がいます。先ほどもお話ししましたが、これでは完全に「合格しないタイプ」に一直線です。自分の考えを曲げないということは、政治家には必要かもしれませんが、資格試験の受験においてはまったく必要ありません。



**あきらめるほど〇〇〇〇であれ！**

資格試験に合格するためには、「あきらめるほど前向きである」ことが重要です。

これは、嫌でも自分はそうだと思い込みましょう。合格率にかなりの差が出ます！

ここで気をつけなければいけないことは、「目的」と「目標」は違うということです。「目的」とは、あなたが人生において達成したいことを指します。

たとえば、「行政書士になって困っている人を助けてあげたい」「弱者にやさしい社会を形成するために尽力したい」といったものです。

一方、「目標」は、その「目的」を達成するための手段です。

言ってみれば「通過点」です。試験に合格するのはまさに「目標」にあたります。否定語を口にしないということは、「目的」達成に必要なファクターです。

ということは、当然その通過点である「目標」の達成にも役立ちます。

まずは、「自分は絶対に合格できる」と信じることです。

そこで、気をつけなければいけないのは、案外たくさんいる「夢泥棒」です。

ネガティブな言動で、あなたのモチベーションをグングン下げる。その人自体、何かやっているわけではないのですが、いっばしの評論家気どりであなただを批判する。インターネットにはそうした人がとぐろを巻いています。

そうした人とは、かわらないのが一番です。

しかし、インターネットなら見なければいいのですが、職場の同僚や上司ということになるとやっかいです。

上手に相手のことを話させるように、話題を変えるなど対策を考えておかないとい

けません。



## 大事件！ 消防車、救急車、パトカー、ヘリコプター集結

「前向きであること」の重要性を説く人は多いのですが、そこに「あきれるほどの」がつくとやはりインパクトが違います。

もちろん試験を突破するのに、気持ちだけで乗り切ることができることは絶対ありません。

「気持ちだけで何とかなる」、などと言う人がいたら、どの世界の指導者であれ、さつさと見限ったほうが無難です。

アニマル浜口さんだって、豊富な練習量があるからこそその「気合だ！ 気合だ！ 気合だ！」という話です。

しかし、本番において、合否ラインを突破するときにものをいうのは「気持ち」だったりする。これも真実です。

私は、1999年度旧司法試験の択一試験（5月に実施されるマークシート試験）において「気持ち」の重要性を実感したことがあります。

実は、私が受験していた会場のすぐそばで試験時間中に大きな事故が起こり、消防車、救急車、パトカー、それにヘリコプターが集結し、ひどい騒ぎになりました。

きつと救護活動のための車両だけではなく、マスコミ車両もたくさんきていたでしょう。とにかく、ただごとではないという雰囲気は、試験を受けている教室の中にも伝わってきました。

特に、私のいた教室は表通りに一番近かったので、とても試験を受けるといいう状態ではなくなってしまったのです。

当時私のいた教室は約50人が試験を受けていたのですが、結局数人を除いて不合格でした。

不合格だった人の中には、不公平であるとして再試験を法務省に要求した人もいたくらいです。もちろん、そのような要求は通りませんでした。

その中で私が合格できたのは、やはり「気持ち」の部分で「自分は絶対合格する」という強い思いを持っていたからだと思います。

今考えても、かなりキツイ状況でした。でも、かえって集中して問題を解くことができました。突然のハプニングを楽しむ余裕すらあったように記憶しています。

周りには、明らかに集中力を失っている人、イライラしている人がいましたが、私は「それでは落ちちゃうよ」などと思いつながら、余裕を持って試験を受けていたのです。

このときから、「試験では何が起るかわからない」という思いを、強く持つようになりました。

試験会場では何が起きてても、それは自分を合格させてくれるために起きていることだ。そのくらいの「気持ち」で向かってください。

自分の周囲で起きたことを、自分の都合のいいように解釈できたのも、「あきれられるほどの前向きさ」を持っていたからこそ可能だったのです。



## 1日5分でも合格する！

仕事に追われ忙しい日々を送りながら、1回で目的とする資格試験に合格したという人たちに話を聞くと、みなさん同じことを話してくれます。

「仕事が忙しくて1日5分しか勉強できない日もありました。

そんなとき、『あゝ、5分しか勉強できなかった』とは思わないようにしていたんです。そう思ってしまうとやる気がなくなってしまうからです。

だからこそ、『忙しかったのに5分も勉強できた！』って思うようにしていたんです。これこそが、「あきれるほどの前向きさ」なのです。



## 合格を目的にはいけない

「合格後を考えよう」

これは、私が主宰している「合格マインド養成塾」で、いつも口に出していることです。資格試験の場合、その資格を取得して「何をしたいのか」がはっきりしていないと、モチベーションが続かないということはよくあります。

特に、ただでさえ忙しい社会人の場合は、かなり明確な「目的」があったほうがいいことは言うまでもありません。

先ほども話しましたが、「行政書士になって困っている人を助けてあげたい」「弱者にやさしい社会を形成するために尽力したい」といったものです。

間違えてはいけないのは、合格はその「目的」を実現するための手段でしかないという事です。

だから、「目的」ではなく、「目標」が重要だという表現をしたのです。

最近は弁護士や公認会計士といった難関資格でも、「合格しても仕事がない」と言われています。

その一方で、自分が取得した資格を有効に活用して、自らの「目的」（使命と言ってもいいかもしれません）を達成している人がたくさんいらっしゃいます。



## モチベーションは確実に上がる！

つまり、資格は道具ではないのです。それをどう活かすかは、資格の種類にかかわらず、その人次第だということです。

もちろん、試験に合格することで確実に変わることもあります。

それは、1つの「目標」に向かって資本と労力を投下し、そしてその「目標」をクリアした、という事実があなたに加わることに。

ここからさまざまな可能性が生まれるかもしれない、という「可能性」を手に入れたということ。

そして、何よりも、あなたのこの「事実」によって、あなたと一緒に、もしかしたらあなた以上に喜ぶ人がいるということ。

これから資格試験の合格を目指す人も、すでに合格を目指して学習している人も、このことを忘れてはいけません。

このことに気がつくからこそ、資格試験を目指すことに意義があるといってもいいでしょう。

**ただ合格を目指すだけでは、モツタイない。**

資格試験を通じて、自分を大きく成長させるチャンスを得ることができると。そう考えると、あなたのモチベーションは確実に今よりずっと高くなります。

これは、私が旧司法試験の受験をしていたときに気がつけばよかったな……と感じていることです。

今から10年以上前ですが、私は、「合格」が目的になって行き詰まっていました。1999年のことです。

ブログでも書いていますのでご存じの方もいらっしゃると思いますが、私は1996～1999年まで旧司法試験を受けていました。

当時の旧司法試験は5月の第2日曜日に択一試験があり、それに合格すると、7月の海の日あたりに行なわれる論文試験に進みます。

それをクリアすると、最後に口述試験が10月末にあって、最終合格が決まる。そんな試験です。法科大学院ができる、ずっと前の話です。

1996年から択一試験は合格することができていたのですが、7月の論文試験では毎年ハネのけられていました。

1999年の択一試験後も、自己採点の結果から大丈夫そうだというところで、論文試験の勉強を本格的に始めていました。

先ほどの重大故があったというのが、この1999年度の択一試験のときの話です。とにかく「合格」しなければいけないということで、ひたすら勉強しました。

7月の試験まで、1日18時間くらいは勉強したのではないかと思います。寝ているとき以外は勉強していました。

結果は、「総合評価A」でした（A～Gで科目ごとの評価と総合評価が返ってきます）。でも、論文試験は「不合格」。

当時働いていた、大検スクールの上司にそのことを報告すると、こんなことを言われました。

「そうか。また受けるのか。まあがんばって。で、受かったらどうしたいの？」

そのとき、初めて気がつきました。

「そうか。自分は試験に合格することが目的になっていたんだ」と。

これは、目の前が真っ白になるような出来事でした。それまで、一生懸命努力してきたことはいったい何だったのだろうかという思いにかられました。

自分は旧司法試験に合格した後に、「どうしたいか」をまったく考えていなかった……。

これは、これまでの自分がやってきたことをすべて否定されるに等しかったのです。

結局、この1999年の受験を最後に旧司法試験の受験を私はやめました。

もちろん、そこで培ってきたさまざまな経験が今に活かしていることは間違いありません。

とにかく、私がした失敗をあとに続く受験生にさせないようにする。試験は違っても理論は同じです。ですから、今から思うと、いい経験をしたなと思っています。

つまり、どんなところにも「チャンス」は転がっているということです。

なりたい自分になれるかどうかは、その「チャンス」に気がつくことができるかどうか。「ただ、それだけ」と言ってもいいかもしれませんが。ここに気づければ、合格は勝ち取れたようなものです。

  
**誰もが「同じ悩みを持つ」から、心配はいらない**

「どこまで勉強すれば合格できるのか？」

自分のこれまでですごしてきた日々を後悔と自責の念で振り返る。やるしかない。わかってはいるけど……、本を開いて深くつくため息。

「自分は頭が悪い……」

勉強したことはほとんど覚えていない。砂漠に水をまくような気分。

模擬試験の点数を気にする必要はないと言われても、あまりに悪い点数にガクゼンとし、啞然とし、呆然となる。

「仕事が必要じゃもつとできたのに……」

「今年もダメかもしれない……」

そんな思いばかりが頭を駆けめぐる。

そういう人にかける言葉はただ一つ。

「で、合格したいの？」

答えは、たいてい「イエス」です。

合格したいから、「がんばれない自分が許せない」ということなのかもしれません。意外に思うかもしれませんが、そういう人はけっこう多いのです。

独学で目指している人、スクールに通っている人、通信講座で目指している人。

合格を目指すスタイルは人それぞれ。そこに正解はありません。

どういった方法で合格を目指していても、やはり同じような悩みを持つものです。

「覚えられないのは自分だけなのではないか？」

「ほかの人はもっとちゃんとやっているはずなのに……」

「法律をこれまで勉強したことがないからダメなんじゃないか……」

悩みどころは共通です。誰もが同じように悩みながら、もがきながら、それでも前に進もうとしている。

そのことを知っただけでも少し気持ちが楽になりませんか？

一生懸命がんばることは大切です。だから、少しだけ肩の力を抜いてみましょう。

「それでは、なんの解決にもならない」

もちろん、そのとおりです。

でも少し肩の力を抜いて、勉強を始めたばかりのころの気持ちを思い出してみる。それで、また前に進もうと思えるのであれば、それはそれで意味があることではないかと思うのです。

講義を聴いたりテキストを読んで、それを自分の中で消化し、それをもとに問題を解き、条文を読み込み、それを繰り返し……。

資格試験の合格のためには、最低限の地味な作業の繰り返しが重要です。

気持ち が 楽 にな っ た ら、ま ず は 簡 単 な 一 歩 から 始 め ま し ょ う。そ し て あ る 程 度 の 量 の 作 業 を こ な さ な い と、学 習 の 成 果 は 出 て き ま せ ん。

で す か ら、ど う し て も 「砂 漠 に 水 を ま く」よ う な 感 覚 に な る こ と も あ る で し ょ う。そ れ で も、め げ ず に グ チ も 言 わ ず に と に か く 最 低 限 繰 り 返 す。成 果 が 見 え な く て も 続 け る こ と。

**努力は必ずしも成果につながりませんが、成果を出した人は必ず努力をしています。**

成 果 が 出 る ま で、と に か く 努 力 を 続 け る こ と。こ れ を 「一 生 懸 命」と い う の で す。

野村克也さんの言葉にも、

一生懸命だと智慧が出る。

中途半端だと愚痴が出る。

いい加減だと言いつく出る。

というものがあります。

この言葉を胸に秘め、もう一度気持ちを入れ替えましょう。



## モチベーションアップ、最高の秘策

合格体験記は通常合格してから書くものです。それはそうなのですが、折にふれて**未来の自分が書くであろう合格体験記を先に書く**と、それだけでも「絶対合格しよう！」という気持ちを強く持つことができます。

特に試験まで、あとわずかと迫った時期にこそ合格体験記を書いてみることをオススメします。

「そんな時間はない！」

そんな声が聞こえてくるような気がします。もちろん、エール出版からが出されてい**るような本格的なものを書きましよう**といっているわけではありません。

もっとシンプルでかまいません。

「あなたの合格を決めたポイントはなんですか？」

この問いに対する回答を箇条書きしてみる。

ついでに、合格者座談会で私にインタビュールされている様子をイメージしてみてください。座談会を聴きに来ている人はあなたのことを尊敬と羨望せんぼうのまなざしで見ている。そんなイメージを持ってみるのです。

ここで中途半端な内容しか書き出せないと、尊敬と羨望のまなざしで見えていた参加者の雰囲気が変わってしまいます。

「あれ？ その程度の学習で合格できるんですか？」という目で、座談会を見ている人が訴えています。

その場合は、まだまだ、やるべきことがあるということなのです。

つまり、「あなたの合格を決めたポイント」は、そのまま「あなたが今やるべきこと」なのです。

こうやって、ちょっと第三者的な視点を入れることで、今まで気がつかなかったことに気づくことができます。

ここで、あなたの学習計画を修正できます。そして、こうやってより良い方向性を

見出すことができることは、あなたのモチベーションアップにつながります。

私は、何かする前に、必ずうまくいったあと、喜びながら勝因を語る自分をイメージしています。

たとえば、この原稿もそうです。本が出版され、多くの方に読んでいただいているという光景をイメージしながら書いています。

これはオススメのモチベーションアップ法です。

ここまで述べたことを頭に置いて、勉強を始めてください。この方法は、私が実際に指導した人の中で、「合格した人たちだけ」が守り続けたことです。

つまり、「合格への最短コース」を行くための、秘訣なのです。

## 合格したあとも、 人生の支えになる「合格マインド」

——和田一恵さん（会社員）

法律の「ほ」の字もよく理解してない私にとって、試験勉強を開始するにあたり、どのように勉強したらいいのか、最初は右も左もわからない状態だったので、授業内やブログでそのつど試験の全体像やそれに対する各科目の具体的な対策などを教えてもらったことが、非常に良かったです。

また、授業とは別に行なわれていた「試験まであと〇〇日間、これからの過ごし方」という、セミナーもかなりよかったです！

「今の段階で民法が5問未満しかできていない人は、まず宅建の問題集から始める」とよい」など、今の自分のレベルがどれくらいなのか、レベルを上げるためにはとりあえずどこから手をつけていけばい

いのかを具体的にアドバイスしてくださいだったので、法律初学者の私でも「できないからあきらめよう」ではなく、「ここから始めればまだなんとか間に合うかもしれない」と、ふんばり続けることができました。

あとは、何と言っても【合格マインド】ではないでしょうか。「あきらめるほどの前向きさ」「絶対合格」の2つの言葉は、試験勉強中大きな支えになりました。

最初は楽しく勉強していたのですが、民法の授業が始まったころから、自分が抱いている「一発合格！」という目標が、とてつもなく大きな野望のように思われ、「やはり私には法律の勉強なんて無理かも……」と、くじけていた時期もありま

したが、そんなときでも授業にいけば先生から合格マインドを注入されるので、「絶対合格してやる！合格したら先生に報告しにくるんだ！」と、また気持ちを切り替えて奮起できました。

横溝先生のクラスを受けていなければ、きっと今の私はないですし、合格マインドを身につけたことで、試験勉強にかかわらず精神面や気持ちの持ち方というのを日常生活の中でもあらゆる場面で活かすことができるので、本当に感謝しています。

今は「絶対合格」というマインドを、「絶対開業」という言葉に変え、日々奮闘しています。

## コラム

### 試験当日の不安を取り除けた！

——中村修一さん

(株)相続手続支援センター名古屋代表取締役)

当日受験会場入りしたとき大変緊張していました。問題冊子が配られ、さらにドキドキしているなか、会場に向かっているバスが事故渋滞にはまったため開始時間を遅らせる旨のアナウンスがありました。

すでに会場にいた私たちはいったん廊下に出ることになり、「やった！最後の勉強ができる」と喜んだのもつかの間、すぐに試験実施本部から「教室内に入ること」と、「教材などはしまうこと」が連絡されました。中には、「バスの人たちはこの間も勉強しているはずなのに、不公平では？」というひそひそ声が聞こえてきました。

私も一瞬「そうだなあ」と思ったのですが、すぐに「バスの人たちは試験開始時間を遅らせていることをどこまで知っているのだろうか？」かえって焦っているのではないだろうか？

か？ それに比べれば今会場にいる自分はあるなんて精神的に落ち着いて、ゆとりがあるんだろう！」と考え直しました。そう思った瞬間から不思議と心臓の鼓動も収まり、落ち着くことができました。